

重要文化財大安寺本堂ほか7棟 保存修理事業の経過報告

鐘樓の石垣部分を積み直しました

現在完全に解体されている鐘樓は、基礎の石垣部分を積み直すところから組み立て作業が始まりました。解体作業で取り外した石はひとつひとつの状態を確認し、割れや欠けなどがあるものは丁寧に補修しました。



鐘樓は寛文3(1663)年に建築された後、約350年のあいだに、地盤沈下などのため石垣がかなり変形していました。これらを是正するため、今回

積み直しをする5段目の積石の下に高さ調整のための石を積みました。沈下の度合によって傾きも違うので、場所ごとに石の大きさを定め、石を切り出して積んでいく作業になりました。



その後、もとの古い石を、微調整を繰り返しながら積み上げていき、最上段には柱の基礎となる石を水平になるように据え付けました。



解体作業で取り外した木材の方も、再用のため補修しました。屋根の軒先部分の木材などは蜂によって多数の穴が開けられていましたが、これらは人工木材を塗り込んで塞ぎます。



また、何本かの柱は根元が腐ってしまっていたので、その部分だけを切り落とし、新しい木材を継ぐ「根継」をしました。

このように、文化財の修理ではほとんどの古材を再利用します。



山門は完成に向けて順調に工事が進んでいます

今年度の完成に向けて組立工事が進んでいる山門は、新たに葺き替えられる瓦も出来上がりました。越前赤瓦で葺き直すので、雰囲気はかなり変わります。



瓦の上には石の棟や鬼が取り付けられる予定です。そちらの製作も進んでいます。

袖塀部分の組み立てはほぼ完了しており、左官工事なども進められて、修理後の姿が見え始めています。



今後の工事予定

本堂は今後、建物全体を一回持ち上げ^{あげや}(揚屋工事)、基礎の補修や補強、根元の腐った柱の補修などを行います。

また、山門は瓦葺、鐘楼はこけら葺と呼ばれる板葺の工程となります。その後、石棟や石鬼が取り付けられ、完成に近づいていきます。

これまでの工事の様子は動画でも公開しています。ぜひご覧下さい。

令和元年度
まとめ



令和2年度
まとめ



設計監理：公益財団法人文化財建造物保存技術協会（東京都荒川区）

工事請負：松浦建設株式会社（石川県能美市）

